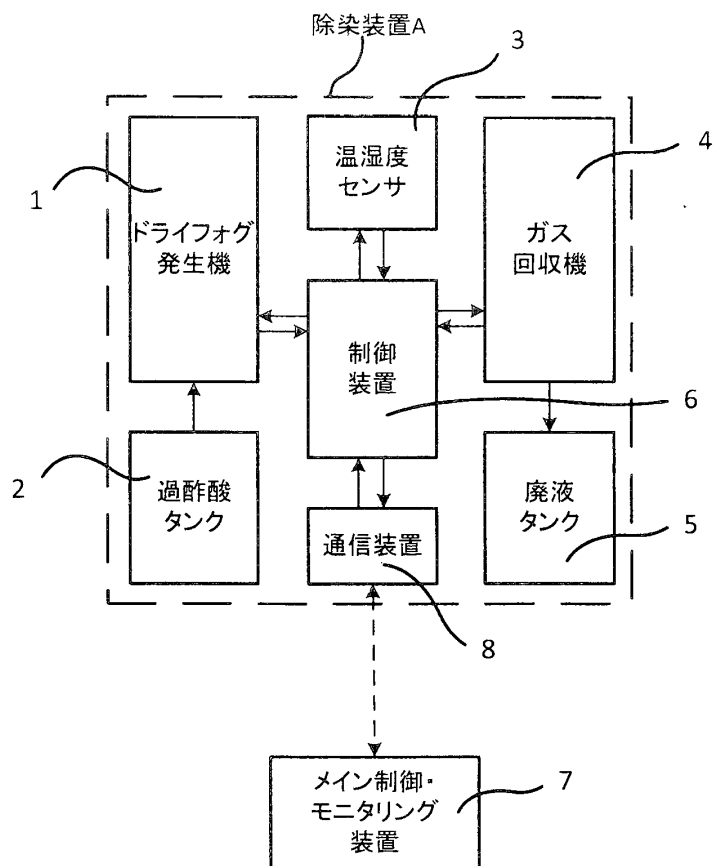


[図1]



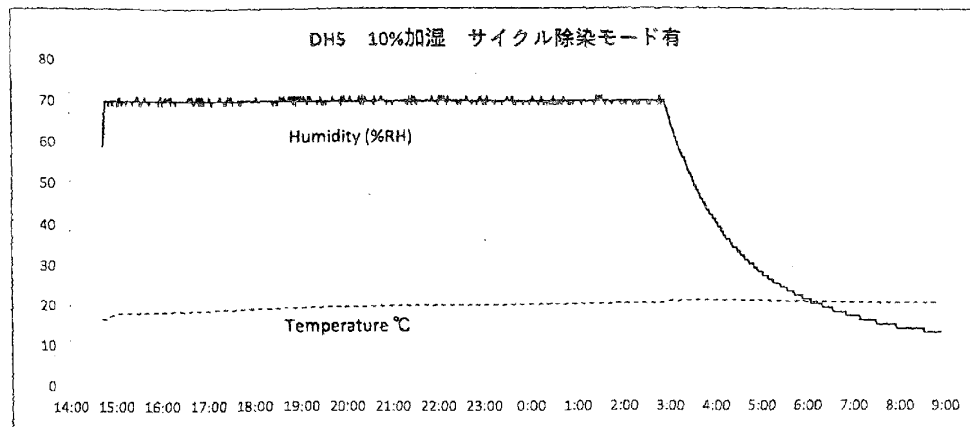
[図2]

(a)	手順
(a)	基準温度 (T_1)、基準湿度 (H_1) を設定し、設定除染湿度 (H) での有効除染時間 (t_1) を複数回測定して決定する。
(b)	基準温度 (T_1) の飽和水蒸気量 $a(T_1)$ と基準湿度 (H_1)、加湿可能湿度の比で薬剤の噴霧量を求める。
(c)	初期温度 (T_0) の飽和水蒸気量 $a(T_0)$ と初期湿度 (H_0)、加湿可能湿度の比で薬剤の噴霧量を求める。
(d)	(b) と (c) の比で、基準温湿度と初期温度・湿度の薬剤の比を求める。
(e)	(c) の初期温度・湿度を設定除染湿度 (H) まで薬剤を加湿し、有効除染時間を複数回測定して決定する。
(f)	(a) の有効除染時間 (t_1) に (d) の薬剤の比を乗じる。
(g)	(f) $\Rightarrow$ (e) になるように、温度と湿度のウェイトを考え、温度係数 (α) と湿度係数 (β) を求め乗じる。
(h)	(g) に湿度計センサーの誤差分の補填する時間 (t_2) を加える。
(i)	任意の除染時間 (t_d) は、初期温度 (T_0) と初期湿度 (H_0) を入力することで、以下の式で求めることが出来る。 $t_d = \alpha \times a(T_1) / a(T_0) \times \beta \times H_1 / (H - H_0) \times t_1 + t_2$

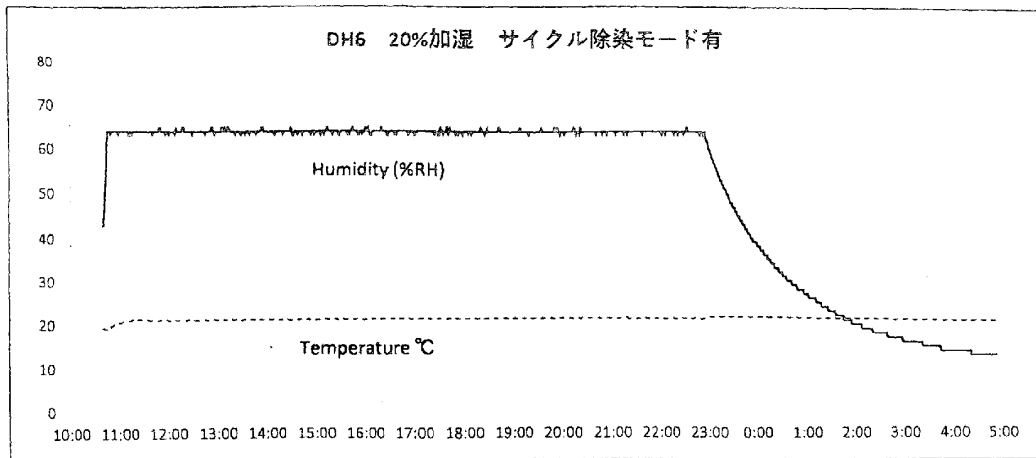
(b)

除染時間	t_d
基準温湿度の有効除染時間	t_1
温湿度センサー誤差の補填時間	t_2
除染エリアの初期温度	T_0
除染エリアの初期湿度	H_0
基準温度	T_1
基準湿度	H_1
設定除染湿度	H
初期温度の飽和水蒸気量	$a(T_0)$
基準温度の飽和水蒸気量	$a(T_1)$
温度係数	α
湿度係数	β

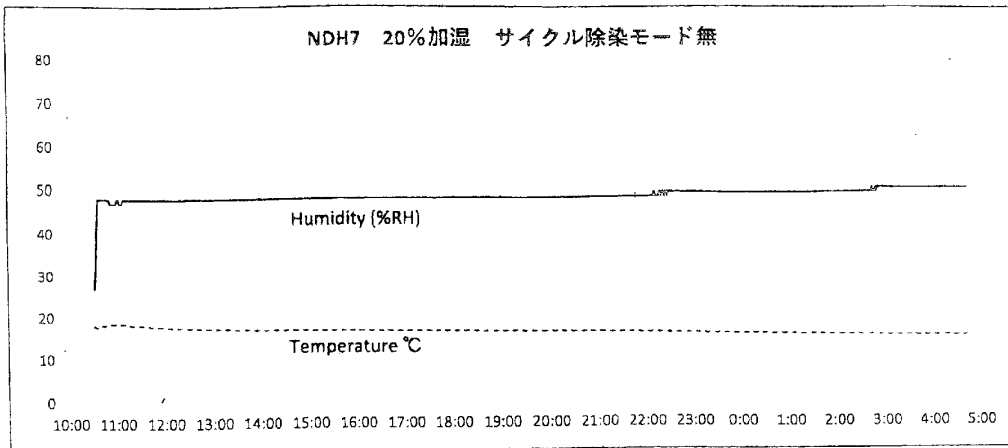
[図3]



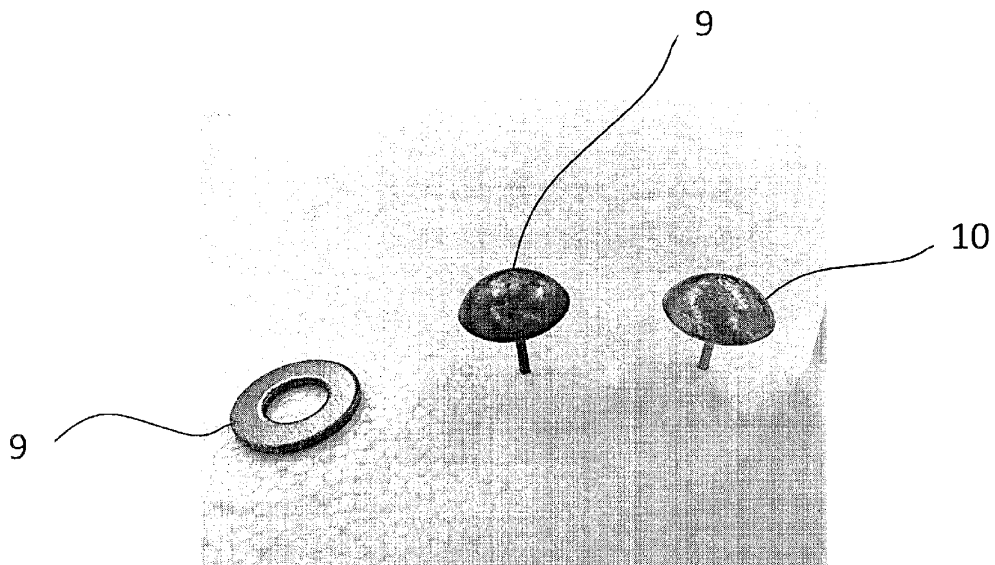
[図4]



[図5]

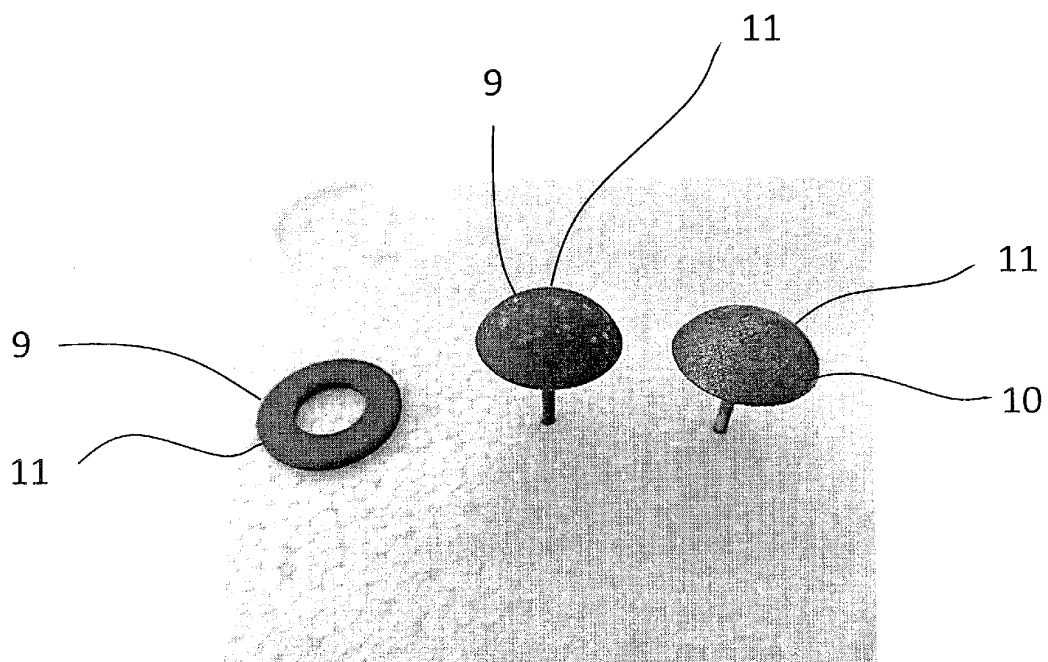


【図6】



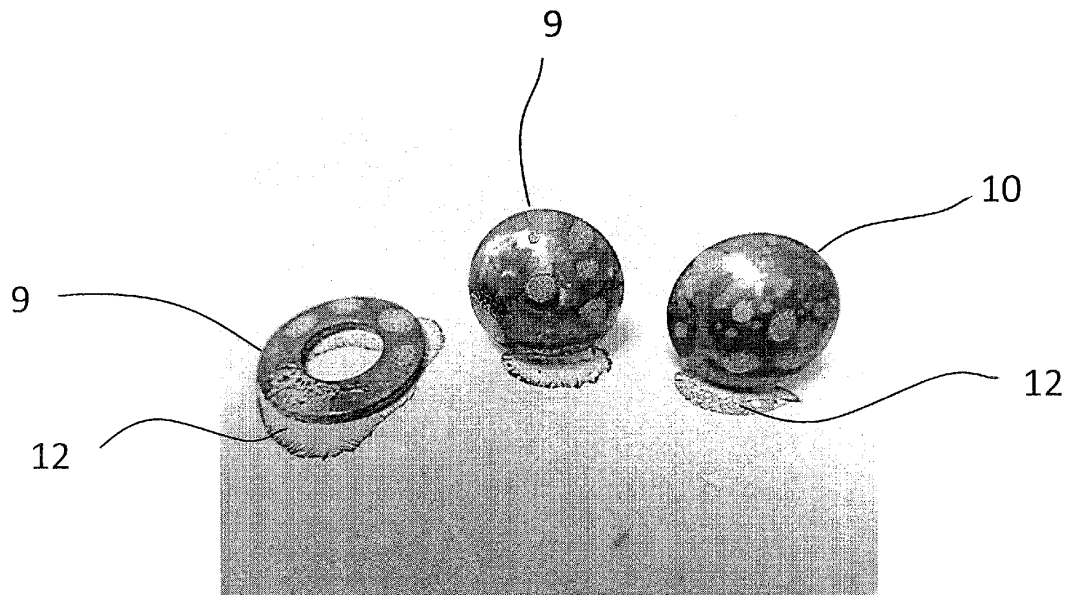
サイクル除染法(12時間)

【図7】



ドライフォグ(1時間)

【図8】



市販品スプレー噴霧(1時間)

【図9】

